

大野ひろ子の 議会報告



平成26年
第4回定例会（12月議会）
より

- 交通安全の推進を目的として、交通政策の担当を都市整備部に一元化します。
- 公民館を廃止し、鶴ヶ島市市民センターが設置されます。公民館の学習機能は継続していくとのことです。
- 65歳以上の方が増えていることを受けて、予防支援のサービスマスターの基準を整備しました。また、地域包括支援センターの職員を拡充し相談業務に十分な対応が出来るようにします。
- 子ども・子育て新制度のスタートに向けて、認定子ども園を含む保育事業の運営基準が決まりました。
- 国民健康保険税が改正され限度額が上がります。また、出産育児一時金の額が上がります。
- 逆木荘を公益社団法人鶴ヶ島市シルバー人材センターに、上広谷児童館をNPO法人カローレに委託します。
- 平成26年度一般会計補正予算からふるさと納税が予算を大きく上回り、7千万円を超える申し込みとなっております。
- つるバス、つるワゴンのルートを見直しました。
- 鶴ヶ島市市民センター開設に向けて看板等を設置します。
- 生活困窮者自立相談支援センターと基幹障害者相談支援センターの開設に向けて予算化されました。

一般質問① 放課後子ども総合プランの取り組みについて

子育て環境の大きな変化を背景に、文部科学省と厚生労働省によって「放課後子ども総合プラン」が策定されました。共働き家庭などの児童に限らず、全ての児童が放課後の多様な体験・活動を行うことができるようにすること。そして、全ての児童を対象として総合的な放課後対策を進める内容となっております。

放課後児童クラブと放課後子ども教室の、計画的な整備を示す同プランについて、鶴ヶ島市での取り組み状況を聞きました。

●平成16年からの「地域子ども教室」と平成19年からの「放課後子ども教室」の成果と課題はどうでしたか。

〔答弁〕両事業は試験的に先行して実施したもので、当市では、取り組んでいない。

●今年度から始まった、放課後子ども総合プランはどうなっていますか。

一般質問②

農や自然を生かしたまちづくり事業の成果について

第5次鶴ヶ島市総合計画施策26に「農を通じたふるさとづくりの推進」が掲げられています。また、昨年策定された第2期鶴ヶ島市環境基本計画においても市民1人当たりの緑地率の向上を目標としております。ここでは農地等を含んでいませんが、緑被率として自然度をみると農地は広大な緑地です。

（株）地域協働推進機構による報告書によれば、農業実態調査やマーケティングの事業展開の基礎の上に、様々なプランがまとめられております。

当市の農業の現状は、この20年で農地が391haから133haに減少しています。有機野菜を作る方は増えていると聞いていますが、今後の可能性について質問しました。

〔答弁〕これまで別々であった事業を協働して進めている。のびのび算数教室、鶴二宿題サロン、遊び場、ぐりどん広場、子どもの公共工事など地域の方の協力により取り組んでいる。

●子育て世代に魅力のあるまちづくりについてのイメージをうかがいます。

〔答弁〕国では、放課後子ども教室と学童保育室の事業の一元化を考えている。近隣の先進的な取り組みを調査し、子育て環境の整備を進める。



子どもたちにも、多様な居場所、そして仲間がいることが生きる力となります。

遊び場を選べる環境づくり、プレーパークの常設化を進めるべきと考えます。



●農ビジネスの立案、農業活性化策の実証と事業提案は、生かされていますか。

〔答弁〕有機農業推進プラン、農産物販売促進事業、体験交流事業について、現在取り組んでいる。農産物は、保育園、共同購入事業、地域団体ごとに納入している。体験交流事業には、都内の企業からの受け入れ他、人を呼び込む事業となっている。

●有機農業の可能性と将来像についての市の考えをうかがいます。

〔答弁〕安心で安全な野菜のニーズは広がっている。今後も、農と自然を通じてのコミュニティづくりを進め、市民の憩える空間としていく。



農業交流センター周辺には、農という手仕事を中心にした、テーマ型のコミュニティがイメージできます。「生産するエコミュージアム事業」の展開が期待できるのではないのでしょうか。

大野ひろ子 これまでの市政提案(一般質問)

平成23年度

- ・より安全で安心な給食づくり
- ・避難所と地域の連携体制
- ・学校施設の保全と整備
- ・5Rと環境衛生の推進

平成24年度

- ・節電の推進とPPSの活用
- ・学童保育室の現状と対策
- ・新たな環境基本計画の方針
- ・高齢者の生活支援の充実
- ・男女共同参画の推進から見た女性の労働
- ・いじめや暴力に対する予防教育の取り組み

平成25年度

- ・環境政策における東日本大震災の影響への配慮
- ・公共施設の更新問題
- ・将来を見据えた保育計画を
- ・支え合い協議会の目指すもの
- ・あるべき介護の姿
- ・学校給食の意義と役割
- ・子ども子育て支援体制
- ・プレーパークの可能性

平成26年度

- ・市と市民の対等なパートナーシップ
- ・住みなれた地域で暮らし続けるために
- ・自転車、歩行者の安全対策
- ・(仮称)地域まちづくりセンターの目指すもの
- ・放課後子ども総合プラン
- ・農や自然を生かしたまちづくり

